

## ごあいさつ



日本WHO協会 理事  
大阪府薬剤師会 会長  
**乾 英夫**

新しい年を迎え皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えになられましたことと衷心よりお慶び申し上げます。昨年は年初より世界中を震撼させた新型コロナウイルスに翻弄された一年となりましたが、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の実践・継続のために様々な取り組みが行われているところです。そして現在もなお医療の現場では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大防止に努めておられる医療関係者の皆さま、また関係団体の皆さまに対し、心より敬意を表します。

薬局においても感染防止対策に努めながら、地域の皆さまが必要な医薬品等を確実に入手できる体制の確保や手洗い・消毒・換気等の啓発、学校等においては学校薬剤師が児童・生徒等に啓発活動を行っています。さらに、重症者の病床を確保し医療崩壊を防止するため、軽症または無症状の新型コロナウイルス感染者の入院措置以外の療養手段として宿泊療養・自宅療養が国から示されましたが、これらの調剤、医薬品供給についても地域の薬剤師・薬局が対応しているところです。

さて、わが国は少子高齢化・人口減少社会の到来を迎え、地域包括ケアシステムの構築が急ピッチで進められています。世界に誇る国民皆保険制度を維持するために、団塊の世代が75歳になる2025年を念頭に社会保障制度の在り方が見直され、「自助」・「共助」・「公助」の適切な連携・組

み合わせを基本として、地域においては保健・医療・介護・福祉・子育ての体制づくりが進められています。大阪府薬剤師会では、お薬手帳を活用した医薬品使用の一元的かつ継続的な管理による医薬品の適正使用は勿論のこと、病気にならないための習慣づくりや病気になっても重症化させない健康づくりの推進にも力を注いでいます。薬剤師には、これまで以上に、高度な薬物療法への取り組みや在宅医療・在宅介護、セルフメディケーションの推進等の広範な役割が求められており、これに対応するため、各種研修会等を通じて会員の生涯学習を支援しています。

2015年10月に厚生労働省により策定されました「患者のための薬局ビジョン」では、かかりつけ薬剤師・薬局の基本的な機能を備えた上で、地域包括ケアシステムの中で地域住民による主体的な健康の維持・増進を支援する機能を持つ薬局を「健康サポート薬局」と定め、その推進を図っています。2020年6月末現在、大阪府で215薬局、全国で2160薬局とまだまだ少ない状況ですが、地域の健康情報発信拠点として役割を果たすべくその普及に努めているところです。

今後とも日本WHO協会の皆さまと顔の見える関係を築き、更なる連携を図ることにより、地域住民の健康維持・増進、予防に貢献してまいりますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2020年12月